



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



安全情報 N0.9

2004.1.16

全日本民医連医療安全委員会

ACLSの普及について

12月の警鐘的事例に、救急患者の呼吸管理に関する判断やACLS (Advanced Cardiovascular Life Support) の実践について、検討を要する事例の報告がありました。当該病院では、問題点を明らかにすべく症例検討を行い、ACLSの学習会や当直医の組み合わせの改善などが実行されていますが、あらためて民医連全院所にACLSに則った救急対応の確認・徹底を求めます。

ACLS講座を、全病院で全医師・看護師を対象に

繰り返し研修会などをひらいて、徹底しよう

たとえば、心停止リズムにおけるプライマリーサーベイ（心肺蘇生と早期除細動に重点）の病院内アルゴリズムは以下のようになっています。

Hazards 現場は安全か	Hallo 患者の意識確認	Help 人を集める、 救急カート・除細動器
----------------	---------------	---------------------------

Airway 気道確保、下顎拳上

呼吸評価 = 見て、聞いて、感じて、10秒まで

Breathing 呼吸がなければBVMで換気2回（10ml/kg）、酸素があれば
6～7ml/kg

脈拍、循環のサイン確認；息、咳、動き

Circulation 心臓マッサージ100回／分、15回の心臓マッサージと2回の換気

Defibrillation モニター評価、バドルで除細動3回まで

Evaluation モニター心電図を評価	適切なアルゴリズムに沿ってセカンダリーサーベイへ
-----------------------	--------------------------

* ACLS：アメリカで蓄積された心肺蘇生法を体系的にまとめたもの。ACLSのアルゴリズム、その習得のためのコース受講など、「日本の救急医療の底上げになるもの」などと紹介（毎日新聞2003.2.28）がされている。